

データと論理でマーケティングを考える

里村卓也

商学部 教授

研究対象はマーケティング・サイエンス。4年生17名、3年生16名で活動中。マーケティング戦略や消費者行動について、学際的アプローチで研究を進めています。

私の研究分野であるマーケティング・サイエンスでは、データと論理を用いて企業のマーケティング活動や消費者行動のメカニズムを捉えること、そしてマーケティング上の問題を解決するための具体的方法を開発し適用することを目標とします。

ゼミ生は、マーケティングを対象とし幅広く研究を行っています。またマーケティングは学際的分野であるため、マーケティングだけでなく経済学・心理学・社会学の理論を用いて現象を説明することが求められます。ゼミ生には、関連分野の理論から仮説を構築し、データによる検証を行い、さらに現実のマーケティングとの関係について考えてもらいます。研究では、解けていない問題の解法を発見し、また問題自体を発見することが求められます。そのためには、先行研究を知ること、また研究に不可欠な統計などの知識を身につけておくことも必要です。

里村ゼミでは、まずは3・4年生混成のグループを作りプロジェクト課題

や文献の輪読を行い、さまざまな研究テーマや分析手法について学びます。次に、3年生のみのグループで半年間、研究テーマを決め、自分たちで試行錯誤しつつ問題の解決に挑戦します。また、この研究の成果を三田祭論文や他大学との討論大会で発表し、異なる視点や考え方を会得する機会も設けています。4年時には、個人で興味のあるテーマを選び卒業論文として取り組み、オリジナルな研究成果を出すことに挑戦してもらいます。

ゼミでは、自分の研究報告を行うだけでなく、他のゼミ生の研究報告についても、口頭での質疑に加えて、コメント・シートなどを活用して全員が質問・提案・評価を行い、ゼミ生同士がお互いに研鑽するようにしています。

学生は、消費者行動やマーケティング戦略に限らず幅広い分野で興味深い研究テーマを探し論文を見つけてきてくれるので、私にとっても研究への新しい刺激となっています。ゼミは学生だけでなく私も学ぶ場となっています。

全力で学び、楽しめる環境

李 止友君 商学部4年

9年目を迎えた里村ゼミでは、日常の中の何気ない疑問を、統計分析を用いて解明しています。学生の視点からテーマを設定するため、六大学野球で注目を集めた「比較広告」や利用者が急増している「インスタグラム」といった最近の流行に焦点を当てた研究が多いのが特徴です。

関東学生マーケティング大会や三田祭論文の執筆など、多様なグループ活動を通して学生の仲が良いのはもちろん、先生のお誕生日会やOBOG会を通して、先生や先輩方とのつながりも強いのが里村ゼミの魅力です。ゼミ全体の持ち味であるメリハリの強さを活かして、全力で学び、楽しむことができ、最高の学生生活を送れる環境であると感じています。



患者さんから学び患者さんを治療する

内科学教室（血液内科）―造血器腫瘍の根治を目指し最先端の治療を実践するとともに、臨床および基礎研究を通して臨床に役立つエビデンス作成を目指す血液内科医を育てている。

岡本真一郎

医学部 教授

30年前には不治の病であった造血器腫瘍（血液のがん）の治療成績は着実に向上し、多くの患者さん（特に若い患者さん）で着実に治癒を期待できるようになった。そこには、正常造血のメカニズムの解明と免疫学の進歩に支えられた造血幹細胞移植、さまざまな疾患の分子病態に立脚した治療（分子標的療法）などの進歩が大きく貢献してきた。血液内科ではこれらの治療を

た、高齢化社会においては単に治癒を目指すのではなく、生活の質を保った治療率の向上を、限られた社会のリソースとバランスさせて達成することが求められる。

積極的に取り入れるとともに、その最適な使い方を明らかにするエビデンスを自らで作成し、それに基づいた治療を実践している。同時に、今なお、高価な治療を長期にわたって必要とする、あるいは治療法が確立していない難治性造血器腫瘍においては、各腫瘍のアクセスの種となりうる分子異常の同定、その分子を標的とした治療法の開発に精力的に取り組んでいる。

私たちは、慶應義塾大学医学部血液内科を訪れた患者さん、ご家族、医師、研究者の方々に、「慶應に来て良かった」と言っていただけの診療科でありたいと願っている。

そこで私たちの血液内科は、4つのFを大切に診療・研究・教育に従事している。For the patient（患者さん中心の、エビデンスに基づいた医療を提供すること）、For the team（医師、看護師、検査技師、薬剤師などさまざまなスタッフが、しっかりとスクラムを組み、質の高いチーム医療を提供すること）、Fair play（誠意を持って患者さんに接すること）、Fighting spirit（エビデンスを見つけ、新規治療を開発し、難治性血液疾患の根治を目指して努力を惜しまないこと）、である。

常に最高の医療を提供する

かりがねだいき

雁金大樹君 医学部 特任助教（2016年3月まで医学研究科博士課程在籍）

血液内科は、白血病の治療や骨髄移植などの特殊な治療を求められている診療科です。これらの治療は患者さんにも大きな負担ですが、医師にとっても非常に厳しい医療となります。私たちの教室では岡本教授の力強い指導力の下、常に最高の医療を提供することを心掛け、スタッフ全員が協力し診療を行っています。また我々若手世代の育成にも力を尽くしていただいております。教授自ら幅広い疾患を受け入れ、最前線で診療にあたっております。今後もこのチームの中で診療技術を高め、血液医療をリードしていく内科医を目指し、日々精進していきたいと思っております。

